前回WGにおける指摘事項について

- 管理会社が長期修繕計画の修繕工事項目に戸開走行保護装置を設定し、その設置費用を修繕積立金に反映して確保しようとする、管理会社が利益を出すために設定したのではないかと管理組合から疑われることがある。(高層住宅管理業協会)
- 管理組合からは、法定点検を年に1回行っているにもかかわらずなぜ毎月保守点検を行わなければならないのか、保守点検をしっかりと行っているにもかかわらずさらに高額のコストを支出して戸開走行保護装置を設置しなければならないのか、といった意見を受ける。(高層住宅管理業協会)
- 戸開走行保護装置の設置について、所有者が費用を負担して設置するのではなく、メーカーが無償で行うべきではないかとの意見がある。(日本百貨店協会)
- 大規模修繕の際には戸開走行保護装置の設置を行っていきたいと考えているが、過度に費用がかかる場合は実現が難しいので、可能な限り低価格、短工期でできるようにしてほしい。(日本百貨店協会)
- エレベーターを複数台設置しているビルであっても、改修工事のために1台でもエレベーターを停止するとテナントに対するサービス低下につながることから、それが阻害要因となっている。(日本ビルディング協会連合会)
- 戸開走行保護装置の規格を共通化することにより汎用性が増して設置が促進されるのではないかと意見があったが、共通化が可能な部分と不可能な部分があるのではないかと。(WG委員)
- 戸開走行保護装置の構成要素は多様であり、各要素の共通化を図ることは可能だが、システム全体を共通化することは困難ではないかと。(WG委員)
- 海外の基準について、フランスの規制は基本的に集合住宅の所有者に課す仕組みであるという理解でよいか。(WG委員)